

**映像制作用 4K リモートカメラ 2 機種向けファームウェアを提供
リモートプロダクションやバーチャルプロダクションの利便性を向上**

キヤノンは、映像制作用 4K リモートカメラ「CR-N500」（2021 年 5 月発売）および「CR-N300」（2021 年 6 月発売）向けファームウェアの無償提供を、2022 年 8 月上旬に開始します。リモートプロダクションの分野で広く採用されている「SRT プロトコル^{※1}」と、バーチャルプロダクションの分野で広く採用されている「FreeD プロトコル^{※2}」に対応可能となることで、製品の活用の幅を拡大し、多様な映像制作ニーズに応えます。



ファームウェアの対象となる CR-N500（左）と CR-N300（右）

「CR-N500」および「CR-N300」は、業務用ビデオカメラと同等の高画質と IP^{※3} 対応を両立した映像制作用 4K リモートカメラです。キヤノン独自の IP「XC プロトコル」や映像制作業界で普及している「NDI[®]|HX^{※4}」に対応し、映像制作現場の効率化・省人化に貢献しています。

今回のファームウェアの提供により、新たに 2 つの通信プロトコルに対応し、映像制作市場で拡大しているリモートプロダクションやバーチャルプロダクションの利便性がさらに向上します。

■ 高品質・低遅延・安全な映像伝送が可能な「SRT プロトコル」に対応

「SRT プロトコル」は、映像のストリーミング配信や放送ライブ中継において広く採用されている映像伝送プロトコルです。「Secure Reliable Transport」の略で、「Secure：映像データを暗号化する高いセキュリティ性」「Reliable：パケットロス^{※5}の再送・リカバリーの仕組みによる信頼性と安定性を確保した確実な映像伝送」「Transport：ネットワーク状態のモニタリングと柔軟で適応性の高いバッファ管理システムにより、ビットレートが不安定な環境でも低遅延で高品質な映像を安定的に配信」の 3 点を主な特長とし、対応する機器、クラウドサービス等との連携による映像配信の効率化を実現します。

■ バーチャルスタジオソフトとの親和性が高い「FreeD プロトコル」に対応

VR/AR 映像の制作時に用いるバーチャルスタジオソフトにおいて広く採用されている「FreeD プロトコル」に対応します。これにより、「CR-N500」および「CR-N300」がバーチャルプロダクション用途においても手軽に活用できるようになり、撮影カメラのパン、チルトを含む撮影情報をもとに高品質な VR/AR 映像制作を可能にします。

※1 Haivision 社によって開発、オープンソース化され、SRT Alliance を通じてサポートされている映像伝送プロトコル。
 ※2 主にバーチャルスタジオシステムにおいてカメラのトラッキング情報伝達用に広く採用されているプロトコル。
 ※3 「Internet Protocol」の略。インターネット上で情報のやり取りをする際の通信方式。
 ※4 米国 NewTek, Inc. が開発した映像伝送プロトコル。
 ※5 不安定なネットワーク状態により、一部のデータ（パケット）が欠けて伝送されることで、映像や音声が悪くなること。

* NDI は、NewTek, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。